事例　防犯灯調査

1 調査準備

防犯灯データを地図データへ落とし込み、
さらに未登録の防犯灯も調査が必要です。
自治体全体のため、エリアごとに調査します。

・調査エリアごとの
地図を用意

出簡調を使うメリット

- 地図は無償かつオフラインで使える地理院地図。
- エリアごとに調査データを用意。

2 現地調査

防犯灯の位置、ランプの種類などの種別、
電柱番号などの現況調査を行います。
調査済みの防犯灯にはステッカーを掲示します。

・現況調査
・調査済み防犯灯には
ステッカー掲示

出簡調を使うメリット

- 未登録の防犯灯を見つけたら、その場で追加！
- 元データの位置が異なる場合はその場で修正。
- 調査に必要なものはタブレットに一元化。
荷物を減らすことで効率アップ!

3 成果品作成

現況調査報告書、防犯灯管理台帳、防犯灯位置図などの納品物を作成します。
また、位置情報を持った電子納品も求められます。

・調査結果に基づく
台帳作成
・電子データ納品

出簡調を使うメリット

- エクスポートしたデータから台帳や位置図を作成。成果品作成の負担が低減します。(*)
- GIS電子データ納品もなんのその。
- エリア分けしたデータも簡単に統合できます。

(*)PC-MAPPING HTを必要とする場合があります。
詳しくはお問い合わせください。